



医療法人近森会

発行 ● 2006 年 10 月 25 日

びろっば 11

Vol.244

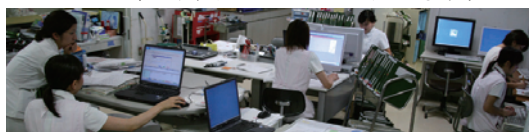
www.chikamori.com 〒780-8522 高知市大川筋一丁目 1-16 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者 ● 近森正幸 / 事務局 ● 川添昇

電子カルテ本格的にスタート

医療現場に有効な道具として

診療支援部 部長 寺田 文彦

▼いよいよ本番スタート、10月1日曜日の昼下がり、ナースステーションのようす



「救急搬入が年間 5,400 台、紹介患者が 6,500 人を超える急性期医療の近

森病院やチームアプローチを充実させたりリハビリテーション病院、第二分院

などから構成される近森会グループをオンラインで結び、質的向上をより充実させるための電子カルテシステムの構築」、これが近森会病院情報システム（CMIS）に電子カルテシステムを導入する命題でした。院長を筆頭に各部署から選任されたメンバーを長時間の会議に拘束し、診療現場より貴重なご意見を提供していただいたことを深く感謝致します。

会議の内容は一貫して「電子カルテがオーダーリングシステムと同じように、治療をサポートするために現場サイドから見て有効な道具か」でした。

当初は、入力作業から生まれるアウトカムが乏しいと思われる内容は厳しい指摘をいただきました。しかし、各部署の意見を出し合って本番稼働にこぎつけたことは、救急から在宅までの「情報の共有化が図れる」「いつでもどこでもカルテが確認できる」「開示に堪え得る医療記録の構築」「診療の質向上の為にチーム医療ができるインフラ環境整備」などと共に、患者データの厳格な管理のもと永久保存・後利用・分析ができるシステムを構築する必要があったためです。

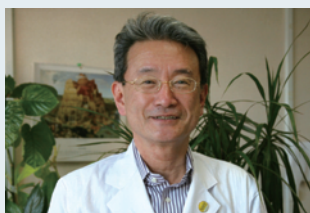
従来の紙カルテはファイルとなって必要な書類や過去データは保存されます。フィルムレスに対応できる画像参照システムも機能アップを行い、電子カルテ画面や大型ディスプレイで確認していただきます。院内端末も 700 台となり、ベットサイドでの記録確認や安全管理のため、患者の皆様にもリストバンドを着用いただきバーコードスキャナで治療内容の確認を行います。



9月9日行なわれたリハーサルで、次第を説明する背中・右側が寺田部長、左に北村副院長

腰痛

近森 正幸



前回皇居一周ウォーキングについて書いたが、高知に帰ってからも続けていて、毎朝 6 時に起床して妻と一緒に散歩をしていた。

ところが、先月はじめにちょっとした段差にバランスを失い、前のめりに転げそうになった。こういうときに年を感じてしまう。

そのことがきっかけになって腰痛が出ってしまった。しばらくは鎮痛剤を飲んだり、湿布をしたり、またコルセットやレーザー、低周波を自宅でひっそりと当てたりしていたが、一向に良くならない。

二週間目に我慢も限界にきて、腰椎

の単純 X 線と MRI を撮って整形の衣笠部長に相談したところ、腰椎と仙椎の間に椎間板ヘルニアがあることがわかった。

幸い前方への突出が主体で、神経への圧迫がなかったため、足のしびれや筋力低下がなく腰の痛みだけだった。部長からは腹筋と背筋を鍛える運動と腰を中心としたストレッチを勧められた。腰は身体で、全身の筋肉が緊張し、腰痛をさらに悪化させるようである。

ストレッチを始めて数日で、薄皮を剥くように痛みは無くなっていった。簡単にいえば立ったときも坐ったときもできるだけ、同じ姿勢を続けず、できるだけ行儀を悪くすることがコツだと教わった。

そういう目で見ていると、会議のときなど机の下でしきりに足を組んだりあぐらをかいたりしている同病の人がいることに気が付き、つい親しみを感じてしまった。

理事長・ちかもり まさゆき

(※前頁より) 携帯端末や無線ノートパソコンで作業の効率化を図り、通信障害が起こらず、停電や障害でシステムダウンしないサーバやネットワークシステムの構築を心がけました。

また病歴システムの強化として、救

急搬入や紹介管理、手術統計、地域医療連携などもさらに充実を図りました。

今後はさらなる改良と新システムの導入により、近森会の職員はもちろん患者の皆様のために還元できるよう、

精一杯努力してゆきたいと考えておりますので宜しくお願い致します。

最後に導入に参加いただき、昼夜を問わず作業に当たっていただきましたメーカー各社の方々にこの場を借りて深く御礼申し上げます。

第1回 医療施設と家庭の食を考える会を開催

料理研究家の辰巳芳子さんをお招きし、10月21日(土)に近森病院第二分院において、第1回「病院や施設、家庭での食を考える会」を高知県の栄養士さんたちを交えてランチョンスタイルで開催しました。

椎茸のスープ、野菜コンソメスープ、スペインのおじや風スープを味わい、サンドイッチをいただきながら、8月21日に行われた近森会入院中の患者さんへのスープ提供について、各担当者からの報告、味の素kkから辰巳さんのスープのうま味分析の報告がありました。その後、高知パレスホテルの田中シェフの人参スープの実演を辰巳さんのコメントを交えて見学、できあがったスープをまた味わいました。

前にはご講演中の辰巳さんと会の発起人の北村龍彦副院長



最後には辰巳さんとのディスカッションで栄養士さんたちから質問が飛び交う中、命を育むスープへの辰巳さんの思いがひしひしと伝わってきました。一つひとつ丁寧に料理をしていくなかで気づきが生まれていくという、辰巳さんの真摯な姿勢に触れ、背筋がピンとなる思いでした。また、近森会

にとっては辰巳さんが「スープを病院

▼高知フォーラムで乾杯の挨拶に立つ北村龍彦副院長(撮影・高知パレスホテル吉村社長)



第6回 公開県民講座 平成18年10月7日 かるぽーと よくわかる“おなかの病気”と治療法

消化器内科部長 栄 枝 弘 司 ▼第6回公開県民講座のスタッフ。

講師を務めたのは最前列左から岡田光生消化器内科科長、栄枝部長、司会進行の西岡成巳&安田美幸看護師長。右端には北川尚史消化器外科部長

公開県民講座で講師を務めた北川部長は胆石症の治療について講演し、胆石の成り立ちから腹腔鏡下胆嚢摘出術までわかりやすく説明され、岡田科長は消化器癌の基本的なことから、この4月より保険適応となり比較的広い早期癌でも一括切除可能な粘膜剥離術などについて実際のDVDの動画もまじえて講演し、早期発見のための内視鏡検査の必要性を強調しました。

私は「ウイルス性肝炎といわれたあなたに」と題して、最近1~2年でかなり進歩したウイルス性慢性肝炎の最新治療について、とくにC型肝炎はペグインターフェロンとリバビリン併用療法の登場により、難治性のタイプ(1b型)でも約50%治癒し、その他のタイプ(2a/2b)では約80~90%治癒するようになり、治療成績が大きく向上



したことを説明しました。

一般の方々へのこのような病気についての説明と最新治療の情報提供は、我々医療従事者の使命でもあり、今後も継続していきたいと思います。

最後に、公開講座の準備や当日の運営に頑張っていたいただいた多くの職員の方々に礼を申し上げます。

聴診器

先日私事で帰省していました。9月台風16号の跡があちこちに見られ、我が家の駐車場の屋根も飛ばされており、口には出せませんでしたが、いなくてよかったと……(苦笑)。

長崎ではちょうど秋の大祭であるお宮日が開かれていて久しぶりに長崎っ子に戻りました。お宮日は諏訪大社のお祭りで、夏の精灯流しと同様に全国的に有名なんですけどご存知でしょうか?蛇踊りといえはわかるかな。

7年交替で毎年6つの町が踊りを奉

神無月

納し、市内中心部を朝早くから夜遅くまで3日間練り歩くものです。今年は41年ぶりに出た町もあって大変盛り上がっていました。この時は学校も午前中だけになることから、いかに長崎人が神様を大切にしているかわかりでしょう。

でも、周知のとおり旧暦の10月を神無月というのにお祭りなんてと思う人もいるでしょうね。10月は出雲で八百万の神々が参集し「神議り」が執



り行われるため各地は「神無し」になると私もずっと思っていました。でもマアお祭りだし楽しいし、いいかとも思っていました。そしたら、出雲に旅立つお諏訪さんを送るためのものと聞き、驚きと同時に神様も民の後押しがあつての神だと、国会議員と同じなんだと納得しました。じゃあ、我がお諏訪さんはどの位の力があつたのかしらと新たな疑問が出てきた今年のお宮日でした。

皆様も機会があつたら一度お宮日を見に来てください。きっと血湧き騒ぐものがあると思います。

(リハ病院3階病棟科長 伊東由美子)

口のリハビリテーションのビデオテープ完成！

「ちょっと見てみようか」と 思われるような プロモーションビデオです、きっと…

口のリハビリテーション委員会 委員長
在宅総合ケアセンターちかもり センター長 宮本 寛



そもそも、口のリハビリテーションという言葉が、まだまだ知られていないので、口のリハビリテーションとは何か、なぜ重要なのか、どうすればよいのかを平易に説明するのが、このテープの目的です。

摂食嚥下障害のリハビリテーションに関するビデオテープやDVDは、すでに日本の第一人者らが作製しています。また、その分野の書物にいたっては、書店に一コーナーを占めるほど溢れています。しかし、よほど関心と意欲がなければ、それらを買って勉強することはしないのが一般的です。

そこで、何とか、あまり関心のない人でも、ちょっと見てみようかと思わせるようなプロモーションビデオを作ってみました。11月から今年も**口のリハビリテーション基礎講座**を開始します。その時に見ていただく予定です。

嚥下障害の患者さんやそのご家族にも見ていただければ、退院後の生活にも参考になると思います。ご覧になりたい方は、近森病院・リハ病院・在総ちかもり・第二分院それぞれにいる「口のリハビリテーション委員」に声をかけてくださればいいので、各病棟の師長さんに相談してみてください。

口のリハビリテーション ■基礎講座■

対象 近森会スタッフ
日時 11.11(土)・12.2(土)、2007.1.13(土)・2.3(土)の4回、8時30分～12時
場所 近森リハ病院7階会議室
安心して食べるための方法を学ぶ
①口腔ケアの実技講習と口腔ケアのノウハウ②食べるときの姿勢調整の仕方③食事介助の方法④できるだけ口から食べて欲しいが、やむを得ず経管栄養になった場合の栄養について
主催 口のリハビリテーション委員会



▲昼休みに早速段取られた口リハビデオ鑑賞会

院 外 エ ッ セ イ

功名が辻

教育委員会 高知城管理事務所 所長

近藤 豊

1946年高知市生まれ
民間会社勤務後高知県庁へ
病院局、水産局、総務部、土木部等
を経て現在



高知城管理事務所の庭で

大河ドラマ「功名が辻」の追い風を受けて高知城を訪れるお客様が大幅に増えている。

本県へツアーを企画する旅行会社が増え、これまで少なかった東北各県や岐阜県などからのお客様も目立ってきた。

大河ドラマ効果を受けて、高知城でのマスコミ各社の撮影も多くなり、名の通った俳優さん達を見かける機会も増えた。

秀吉役の柄本明さんは、お一人でお見えになり、作業中の職員の作業着に気さくにサインをしてくれた。歌手の湯原昌幸さん、荒木由美子さんご夫妻も記念写真をお願いしたところ快く応じてくれた。小林稔持さんは「窓際太郎」の撮影で渋い演技を見せていた。

また、坂口良子さんは天守6階で暫し職員と世間話。ジャニーズの桜井君は所属事務所のガードが堅く写真撮影はノー（私は桜井君が何者か観光客から聞くまで知らなかった）。

9月に入って「功名が辻」の終盤、一豊が土佐へ入国後の撮影が高知城で行われた。混雑を避けるため、早朝の

6時半から撮影が行われ、上川隆也さん、仲間由紀恵さんは、一豊、千代の衣装のままで急勾配の天守の階段を登りづらそうに上がっていった。

当日、高欄回廊の金具の手すりは都合が悪いということで取り外していた。このため、手すりが低くなったので担当者には撮影に際して十分注意を払うようお願いしていたところ、スタッフの一人がロープを持参してきたので、どうするのか聞くと、誰か高所恐怖症がいたらロープで後ろから縛って撮影するとのこと。

幸い一豊も千代も高所は平気でロープは出番なく撮影は終了した。

この日も写真撮影はノーだったので、私は密かに千代の抜いた草履を撮影して同僚に見せたところ大笑いされてしまった。

この日撮影したシーンは12月半ばに放映予定とのことで、また、番組終了後に番組ゆかりの地を紹介している「功名が辻紀行」は11月中旬から12月始めにかけて、高知、中村等が予定されており、今から心待ちにしている。

主任に昇格しました。

第一部 近森リハビリテーション病院の部

① 看護部 歯科衛生士 坂本 まゆみ

「人生はこの口でできる、この口をどのように使うかで人生は変わり、どのようなものをどのように取り入れるかで健康は決まり、どのように使うかでその人の人生の輝きは変わる」言葉を私なりに伝えていければと思う。

② 理学療法科 理学療法士 刈谷 眞美

学生時代からの夢だった理学療法士となり、年月を重ねた今も日々「この仕事を選んでよかった」と感じながら仕事をしています。今後は個人としての成長に加え、組織全体が成熟していくよう努力を続けていきたいと思っています。

③ 理学療法科 理学療法士 竹村 恵美

12年前、新人理学療法士として近森会に就職して以来、多くの方々に支えられてここまで続けることができました。これからも、人との繋がりを大切に、後輩たちにも色々なことを伝えていけたらと思います。

④ 理学療法科 理学療法士 和田 仁美

「怖い人かと思っていました」とよく言われます。心得ではありますが、主任という肩書きが付けばますます……。

自分が発言する言葉の重みを考えながら、出来ることから頑張りたいと思います。

⑤ 理学療法科 理学療法士 澤本 ^{しずか} 静

このマンモス理学療法科（とにかくスタッフが多いんです！）に今でも圧倒されているなか、



このたびこのような辞令をいただきました。恐れず、怯まず……！？ではないですが、自分らしく頑張ります。

⑥ 理学療法科 理学療法士 二川 めぐみ

就職して11年目、私が就職した頃の理学療法室は50人弱の人数でしたが、今では96人になりました。たくさんのおかげで仕事が出来ていると思っています。これからも、自分らしく頑張っていこうと思っています。

⑦ 理学療法科 理学療法士 岡田 耕平

自分が教わってきた主任といえば、心強く、冷静で、視野が広く、話しやすいが少し怖く、やたら賢くて、やや酒癖が悪い!? という尊敬できる達人でした。自分にできるか分かりませんが、そういう主任を目指します。

第二部 近森病院（本院）の部



① 理学療法科 理学療法士 高 芝 潤

このたび9月16日付けで主任心得の辞令をいただきました。リハビリテーションは決して一人で成せる物ではありません。今までもそしてこれからも“one for all all for one”の精神で頑張っていきたいと思っています。

② 理学療法科 理学療法士 島本 佳奈

「一期一会」私が就職して以来これまで様々な治療時期の患者の皆様や医療スタッフに出会うことができ、多くのことを学ばさせていただきました。これまでの経験を活かし一日一日を頑張っていきたいと思っています。

③ 理学療法科 理学療法士 塩田 直隆

主任の辞令は正直不安というより戸惑いの方が大きいですが今まで先輩方から教わったことを生かし上司や後輩たちという関係をもってマイペースでがんばっていきたいと思っています。



20年前のニューフェイスう〜♥

新館3階東病棟主任 竹崎 ^{あやめ} 文女

▼体重は変わりません



『ひろっぱ』は2006年8月で20周年を迎えた。早いな、懐かしいなと思っていたら、当時の自分がみてみたくなった。『ひろっぱ』編集室で探してもらおうとその顔はすぐにみ

つかった。自分の20年前のニューフェイス欄の写真である。

写真を眺めていると当時のことが脳裏に浮かんた。「〇〇先生、今月のニューフェイスです」と主任さんから紹介された私は、とても恥ずかしくて赤面した。ナースコールが鳴ると廊下を走っていたあの頃、初めてのことばかりで

キドキの連日であった。21歳の夏である。

あれから20年。8月から育児休暇明けで3東病棟のニューフェイスとして勤務しています。慣れない一般病棟勤務。少々、フットワークが衰えましたが、スタッフの皆さんに教えていただきながら頑張っています。宜しくをお願いします。

診療情報管理士に 新たに10名合格!

— 医療の質を

正しく評価する時代へ— 管理部長 川添 昇

この10月、新たに10名が診療情報管理士の資格を取得した。これで診療支援部(医事課、企画情報室、診療情報管理室)44名のうち、30名・7割のスタッフが取得したことになる。

思えば、小生が厚生省(当時)の病院管理研究所、病歴管理コースを修了し、当院に病歴室を開設していただいて25年になるが、その間、診療録管理士が養成され、2名体制で診療録管理を行っていた。

約10年ほど前から当時アメリカで行われていたDRG一疾病別包括払制度が我が国でも導入されることを見越して、以来当院は積極的な診療情報管理士の養成を行ってきた。病院の診療情報と診療報酬に関わる事務スタッフは、この基礎的な医学教育を受けた者でなければならないとの考えが開花し、本年4月よりDPC一疾病別一日当包括払制度の導入で実を結びつつある。現在勉強中のスタッフもどんどん後に続き、質、量とも充実した診療支援部に成長していただきたい。



▲敬称略で後列左から山崎理可、小松由季、谷知明(医事課長)、北村昌久(同主任)、中列左から※市木幸【診療情報管理室】、東野典子、刈谷雅理、前列左から石井浩子、佐野和代、長山有里。【※以外所属は医事課】

● 11月の歳時記 ● アロエ

文と画 薬局 北本知子

一般的にアロエといえば、火傷や健胃などに効く民間薬として使われることから、別名【医者いらず】とも呼ばれます。

葉に灰白の模様が入るものや口紅アロエなど、観賞用の鉢植えもあり、晩秋に咲くオレンジ色の花は美しく人気があります。



職員旅行

2006

Vol.1

韓国ソウルと、瀬戸内グルメの旅を紹介します。



▲「韓国語は母音10個、子音14個、これらの組み合わせでできあがっているのです」と現地のガイドさんが旗の先で地面にハングル文字の「講義」。一同聞き入って「ムム、納得…」



▲韓国李氏王朝を興した李成桂が建てた王宮「景福宮」で。気持ちいい真つ青な空「韓国」晴れ!

▲海鮮石焼き料理は島に伝わる水軍の宴料理だったとか。他、天ぷらと鯛飯がつけました、ラッキー



▲大崎下島の周りを「いけす」とした海鮮石焼き料理

▲全員で記念撮影。広島県呉市、瀬戸内海のほぼ真ん中に浮かぶ大崎下島。特産の温州みかんを運ぶ全国でも珍しい船や、山の斜面には石垣を積んだ段々畑、御手洗地区では江戸時代の町並みも見られる

ハッスル研修医 第二部 後期研修医 vol.1

自分を励ます言葉



研修医 樽井 俊

「泣きながらでもいい、前を向いて歩いて欲しい」今年の春ごろに、一冊の写真集が発刊されました。華々しいスター選手が名を連ねる1軍選手ではなく、日頃、陽の目を見ない巨人軍の2軍選手にあえて焦点を当てたこの写真集は斬新であり、大きな話題を呼んだそうです。自分はテレビの紹介を少し見

ただけでしたが、色々悩みながらも地道に野球と向かい合い、一生懸命に頑張っている選手たちの姿に心打たれるものがありました。冒頭の言葉はその中に書かれていた言葉です。

さて、私は今年4月から外科系後期研修医として近森病院で研修を始めました。約3年間で、外科を中心として麻酔科、循環器内科、心臓血管外科等を研修させていただきたいと考えております。医者3年目といっても、まだまだ経験は浅く色々不安がありますが、指導して下さる先生方やコメディカルの方たちの助

けで何とか頑張っています。

今では、思い切って高知、そしてこの病院に飛び込んでみてよかったと思えるようになりました。時には落ち込んだりする時もありますが、そんな時は冒頭の言葉を思い出し自分を励ますようにしています。考えてみますとこの言葉は、自分に対してだけではなく、病気を抱えた患者さんに対してもこのような気持ちをこめて診療にあたるのが大事なのではないかと最近は思っています。こんな自分ですが今後も宜しくお願いします。

出張報告●オランダに学ぶデイケア視察研修

何故いまオランダか？

平成18年8月27日から9月3日までの8日間に亘り、全国老人デイケア連絡協議会企画（霞ヶ関南病院 病院長 斎藤正身先生コーディネーター）による「オランダに学ぶデイケア視察研修」が実施された。

訪問リハビリテーションちかもり 主任
佐藤 健三



▲ヒューマニタス高齢者住宅。賃貸・購入の部屋、ナースিংホーム、健康増進施設、レストラン、保育園が併設されている

事前に戴いたパンフレットに、「今回の目的は医療・介護保険制度の見直しに対応するための視察」とのコメントがあり、何故いまオランダなのか？と疑問を感じての出発であった。その意図は現地で講義を受けることでようやく理解できた。

我が国で2000年4月から導入された公的介護保険制度は、1995年からドイツで導入された介護保険制度を参考にしたことで知られている。しかし、このドイツの制度は30年以上にわたって実施されてきたオランダの介護保険制度を参考にしたものであり、幾度かの改革を経た歴史がある。また1999年に導入したEU以降、欧州でトップの黒字財政を達成している国なのであった。

視察研修では、まずオランダ介護研究所・理事 Pieter Huijbers 氏より、オランダにおける医療・福祉・保険制度等の概要について講義を受けた上で、



▲オランダ介護研究所（NIZW）・理事 Pieter Huijbers 氏の講義風景

数日にわたってナースিংホームや高齢者住宅、リハビリテーションセンター、老人ホーム、アルツハイマーカフェ等の現場を視察させていただいた。

医療・介護の保険システムは、基礎医療保険と国民長期ケア保険＝AWBZ（日本における介護保険）とに大別でき、日本と似通っているが、ここに障害者も含まれている点で異なる。

AWBZ を利用するにあたっては、CIZ という公的機関から各職種で編成され

たチーム（高齢障害者が参加することもある）が依頼者のもとへ出向き、評価・



▲オランダハーグ市マリエンハーベ老人ホーム。約250年前に建設された修道院を改築したもの

判定を行い、要介護度は設けず個々に必要と判断されたサービスを提供する仕組み（認定審査とケアマネジメントが一体化している）となっている。

また「在宅」は、自宅に加え、極めて設備の整った一部のナースিংホームや高齢者住宅も位置づけられておりこれが一般化している。サービス提供者はほとんどが民間・NPO 団体で、ボランティア団体も非常に多い。さらに GP（家庭医）制が充実しており、終末期医療も整っている。

以上のように、まだまだ福祉先進国に学ぶべき点は多いが、逆に日本の医療・介護システムのすばらしさに気付く点もあった、実り多き視察研修であった。

看護部♡キラリと光る看護 “まっこと困ったねえ”と、 しもの病気を外来で支える

その28



最近泌尿器科外来の応対がよろしいとお褒めをいただきました。

病気にもいろいろありますが、外性器に関する病気は羞恥心をともない敷居が高いものです。ところが加齢とともに避けて通れず増加しているのが前立腺肥大症をはじめとする排尿障害の病気です。痛みをともなう尿路結石症や前立腺癌の方も増加しています。女性も腹圧性尿失禁、いわゆる尿漏れを気にされる方が多く、また中学生から80歳までの幅で、脊髄損傷のため在宅自己導尿の管理をされている方の受診も多くあります。

当院の泌尿器科外来には田舎の肝っ玉母さんタイプのナースと標準に近い都会派タイプのクラークがバランスを取り合って親切な対応をと心がけています。泌尿器科で評価していただけているとすれば、患者さんとの「心理的

距離」を瞬時に判断して、失礼な介入をせず距離を置く場合とか、どちらかという、気さくに田舎言葉で相手に緊張をいだけないように、「まっこと困ったねえ」といっしょに悩み、さりげない適度な日常会話を多くするなどプロのパフォーマンスを地で行なっている点です。

経験が長いため患者さんから伺った工夫や方法が適切な時はそれを伝授し、感謝されることもあります。いちばん注意していることはやはり医師のおこなう特殊な検査や治療の説明が理解できたか、確かめて、言葉を足し励まし、苦痛なく治療が進行するように整えることです。10月から医療費の自己負担も高くなったため、事前に説明の言葉を添えたり、ワーカーを紹介したり心配りが必要な時代になりました。（看護部長 梶原和歌）

仕事も家庭も安全第一、 淡々と…粛々と…

子どもの頃に育った環境を大人になってから、しかも50歳を過ぎた生活に結びつけるのは、少々無理があるのかも知れないが、岡田さんの場合、子どもの頃の毎日と現在のご生活が実にピッタリ結びつく。

四人の姉妹兄弟のただ独りの男の子で、「子どもの頃に外でスポーツをやった記憶よりは部屋で本を読む方が好きだったし…」地元の普通高校の化学科に進んだのは「実験を研究室のなかでコトコトやるのが好きだった」からだし、売り手市場の当時、数ある就職先のなか麻酔薬や抗凝固剤を作る工場に入ったのも「それが面白そうに思えたから」だった。

その後、地元に戻ってまず就職した市役所への通勤バスで、のちに結婚することになる奥さんを見初めたことは、素敵なエピソードのひとつ。後に検査部門に空きのある地元病院に正式採用になったとき、「この仕事を続けるなら専門の学校に行くべき」とドクターに勧められ素直に従い、高知学園短期大学衛生技術科に3年通って国家資格を難なく取得。卒業後、即現在の血液センターに就職し、以来30年間ずうっと血液検査一筋の穏やかな毎日。大きな波風に遭うこともなく、順風満帆、子どもの頃そうであったように穏やかで幸せな毎日が過ぎてきた。

つまり、子どもの頃、研究室でコトコト実験をするのが好きだったように大人になってからも性に合う血液検査を続けられる幸せな毎日だった。

昨年は、これまでの穏やかな人生のなかでは「大変動」を経験し、血液センターの機構改革による異動で、いきなり外勤が増え、輸血の副作用や血液製剤取り扱いについての講演をしてまわる機会も多くなった。

だからといって、岡田さんの心のなかに大変動が訪れているわけではない。いつも通り、「家では私がいちばん家庭的でしょう！」と、ニコニコしゃー

しゃーと言えるマイホームパパ。「妻の時間帯に合わせてアッシーくんを頼まれるのが、いっさい苦にならない」、というより、むしろ、妻の予定で動くことに喜びさえ感じているらしいから、まさに理想的！世の妻たちには心底羨ましがられそうな「立派な家庭人」なのだ。定年を間近に控えて世の男性諸氏には岡田さんのように考えてもらいたいものだ！で、妻の予定に合わせるというつつも、ご自身の趣味はしっかり多彩。テニスにバレーにジョギングに釣り、いまいちばん凝っているのは水泳で、休みの日は午前中春野のけんみんプールで泳ぐという健康オタク。

通勤バスでの出逢いから、「金のワラジを履いて探したヨメさん」と結婚後に恵まれた二人の子宝のうち耕平さんは30歳。近森リハ病院の理学療法士で今号4面に主任昇格の写真が載っている岡田家の立派なご長男さんだ。

昔、私の夢はバイクで一人旅をすることでした。バイク旅とは、最小限の荷物をバイクに乗せ、自分の両手足で操作し風を受けながら走る。細かく語ればややマニアックになりますが、冒険を楽しめるバイクってすごい乗り物だと私は思っています。

それを実現したのは24歳の時。仕事を辞め、気ままな一人旅を開始。宿泊の基本はキャンプで、昼食はおいしいと聞く店を巡り、夕食は地元の食材を集め調理。風呂は各地に点在する天然温泉。本当に最高でした。また、たくさんの人に出会えたことが、更に旅がおもしろいものとなりました。もちろん長旅を続けていけば楽しいことばかりではなく、その中でも、キャンプ場近くで熊が出没し撤収するよう勧告されたのですが、夜遅くの移動は不可能で、食材をテントの外に出し、明かりを消し震えながら一晩明かした日がありました。まさにサバイバルです。

次の年には青森ねぶた祭りを目指し、バイク連として祭りに参加。ラッセラーの掛け声とともに跳ねたことはいい思い



▲安全な輸血のための血液製剤の取り扱いなど、検査室では担当の米澤技師に厳しい表情で説明。真剣勝負！



▲「最高の親友とも呼ぶべき妻」とリビングで寛ぎのひととき、写したの長男の耕平さん

「いかに安全な血液を皆さんに使っていただけるか」が仕事の最重要課題だが、仕事も家庭も安全第一、なににごとも丁寧で実直な、いかにも岡田さんらしい毎日が淡々と過ぎていく。

リレーエッセイ バイクの気ままな旅

ヘルパーステーション
介護福祉士 佐藤史恵



出です。そんな気ままな暮らしを2年以上続けると、達成感と共にお金もつき、普通の生活へと戻っていきました。あの旅で得たものは私にとって大きな宝物です。

今は無事結婚し、娘が一人。娘は電車やバスはもちろんのこと、救急車・消防車等、とにかく乗り物が大好きで私のバイクにも乗りたがります。そんな娘と愛する夫と共に、バイクで気ままな冒険の旅に出ることが、私にとって一番の夢です。

シリーズ●クリニック探訪20

亀井クリニック

tel.088-885-5533 fax.885-6565

高知市市場 知寄町二丁目～北、丸池橋もと



院長・亀井義広（昭和25年12月25日、高知市生まれ、趣味はゴルフとスキー）

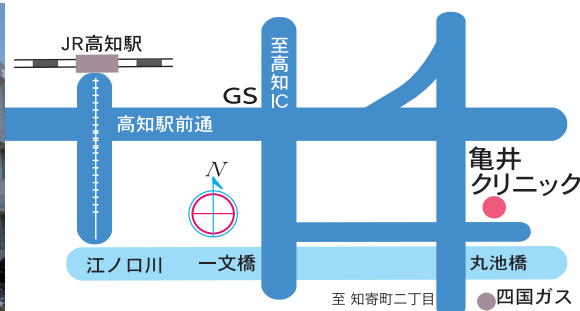
▲当院は、泌尿器科を専門とする有床のクリニックです。尿が出にくい、尿が近い、尿がもれるなどの症状はつらいものです。早めに専門医を受診しましょう。

診療科目 ● 泌尿器科、内科、皮膚科

診療時間 ● 9:00～12:30

14:30～18:00

休診 ● 日曜、祝日



図書室便り (管理棟図書室 9月受入分)

・INSALL&SCOTT Surgery of the Knee Fourth Edition Volume1,2 / W.Norman Scott・AO Manual of Fracture Management Hand and Wrist / Jesse B.Jupiter(他著)・Textbook of ARTHROSCOPY / Mark D.Miller(他著)・人工膝関節置換術―基礎と臨床― / 松野誠夫(編集)・エキスパートのための脊椎脊髄疾患のMRI / 柳下章(編集)・2006―07 大衆薬事典 一般用医薬品集 第10版 / 日本大衆薬情報研究会(編集)・第十五改正 日本薬局方 / (財)日本公定書協会(編集)・症例から学ぶ輸血療法 基礎と臨床応用 / 鍋島俊隆(監修)・臨床微生物検査ハンドブック 第2版 / 小栗豊子(編集)・臨床研修指導医のためのポケットマニュアル 2005 / 畑尾正彦(編集)・臨床研修の現在 全国25病院医師研修の実際 / 市村公一・人工臓器の実際 改定第4版 / 太田和夫・さらばシャントラ 増補版 / 太田和夫・移植医療を築いた2人の男―その光と影・透析とともに生きる 腎不全からの再生 精神科医自らを語る / 春木繁一・認知症と診断されたあなたへ / 小澤 勲(他編集)・NSTが病院を変えた! / 東口高志(責任編集)・健康食品のすべて―ナチュラルメディスン・データベース― / 田中平三(他監訳)・標準的内科診療録 電子化にどう対応するか / (社)日本内科学会(編集)・平成17年4月版 診断書を作成される医師のための障害年金と診断書 障害基礎年金・障害厚生年金 / 社会保険研究所(編集)・医療機関のための労災診療費算定実務講座 平成18年度版 / (財)労災保険情報センター(編集)・落ちこぼれタケダを変える / 武田國男・自由と強制のリーダーシップ / 大西 宏・企業改革大成功―5S運動で社員が、会社が変わった4年間の実録― / 橋本奎一郎・叩き売りされる厚生年金福祉施設は本当に不要か―厚生年金福祉施設こそ年金理解の架け橋― / 橋本奎一郎・〔図解〕企業を危機から守るクライシス・コミュニケーションが見る見るわかる / 東京商工会議所(編集)・《別冊・増刊号》・別冊 医学のあゆみ 睡眠時無呼吸症候群 / 石井芳樹(編集)・からだの科学 増刊 これからの保健師 / 水嶋春朔(他編集)・こころの科学 HUMAN MIND SPECIAL ISSUE 2006 新・臨床心理学入門 / 河合俊雄(他編集)・《ビデオ・DVD》・医療が安全であるために―NDPが進める医療安全の取り組み― vol.2 事例に学ぶヒューマンエラー分析手法―要因解析の技法― / 河野龍太郎(監修)

9月の診療数

近森会 外来患者数	19,025 人
近森会新入院患者数	857 人
近森会 退院患者数	865 人
地域医療支援病院紹介率	82.06 %
近森病院平均在院日数	14.41 日
近森会 平均在院日数	21.59 日
近森病院救急車搬入件数	416 件
うち入院件数	210 件
手術件数	294 件
うち手術室実施	241 件
全身麻酔件数	144 件

企画情報室より

編集室通信

▼定期物の連載（つまりタイムリーというわけではないけれど）が誌面の都合であまり載りません。「記事が溢れたので次へ延ばさせていただきます〜」と、お断りの仕方が板について来ました。(乙女)